



図書館サポーターズだより

明日に吹く風



そろそろ皆さんも新生活に慣れた頃でしょうか？ 暖かい日も多くなり少し気分も晴れやかになりますね。そうかと思えば6月は梅雨。雨二モ負ケズ！！今年度も図書館サポーターがオススメの本をご紹介します。

～図書館サポーター推薦図書～

『予想どおりに不合理』：ダン＝アリエリー 著 (331 || A71)

私たちのいつもどおりの日常は、様々な選択やその決断で溢れ返っています。学食で 450 円の焼肉定食と 500 円のしょうゆラーメンのどちらを選ぶか、レポートを先に終わらせるか、それとも友人と遊びに行くか・・・などなど、毎日多くの決断を下しながら日々の生活を送り、そして大抵の人が自分は「正しい選択をした」と納得をしていることと思います。しかし本当にその選択や決断は「合理的に正しい」ものなのでしょうか？この本ではこうした日常に潜む様々な選択と決断について、この本の著者であり、数々のユニークな実験でイグ・ノーベル賞を受賞したダン・アリエリー教授が「行動経済学」と言う観点で分かりやすく、ユニークに解説してくれます。あなたがそれを選ぶにはワケがある・・・私たちがいかに不思議で「不合理」な行動をとっているかが分かる、オススメの一冊です！ (Y・Y)

『一日がしあわせになる朝ごはん』：大野 正人 著 (596 || I16)

この本はタイトルの通り、朝ごはんについて書かれている本です。朝はいつまでも布団に包まれていたい、でも朝ごはんを食べて元気をつけたい、でも面倒な手順は踏まず手軽に食べたい、そんなときにこの一冊です。色々な種類の料理と食材が登場する中で、朝ごはんによく食されるたまご、パン、ごはんは、料理の説明のほか、に少し栄養面の説明も書かれているので、健康を気にしている方にもオススメです。さらにポップなイラストとともに料理の完成した写真も載っているので、完成がイメージしやすいのも魅力のひとつです。本書では、1つの食材に沢山レパートリーがあり、手間がかからない簡単な料理ながらも著者の様々なアイデアが詰まっています。気分が盛り上がるのはどんな朝ごはんか、この本をもとに是非自由に探してみてください。 (M・S)

『有頂天家族』：森見 登美彦 著 (913.6 || Mo54)

狸って本当に人間に化けると思いませんか？この本は、そんな狸家族と天狗が京都を舞台に大はしゃぎする話です。主人公の矢三郎は「面白きことは良きことなり！」が口癖で、天狗に憧れて人間に化けるのが大好きな狸です。しかし、一家の危機ともなると兄弟の誰よりも頼りになります。矢三郎を筆頭に、一家が団結し、ライバル狸たちの陰謀に立ち向かっていく場面は、家族の団結力の凄さを感じます。また、登場人物の独特な言い回しや印象的な台詞が多いのも、この作品の魅力のひとつです。舞台背景には鴨川や京阪電鉄などが登場するので、ファンタジーの中にリアリティを感じる部分もあります。加えて、著者である森見登美彦の作家生活 10 周年を記念してアニメ化もされているので、原作ともにオススメです。笑ったり泣いたり、ちょっぴり家族が恋しくなる一冊です。 (Y・S)

* 図書はメインカウンター脇にあります。ご利用ください。